

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報：

履修モデル・プログラム（履修課程）及び主要科目の特長

2021年9月

<<博士後期課程>>

国際関係学研究所 国際関係学専攻 博士後期課程

【教育研究上の目的】

博士後期課程では、時代の潮流を見通す長期的なビジョンと多様な価値観を認識・理解できるグローバルな視野を有し、かつ国際社会が抱える広範囲で多様な課題に対して自立して研究活動を行い、また高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を備えた人材を養成することを目的とする。

【カリキュラム】

博士後期の教育課程は、「共通選択必修科目」及び「博士論文特別演習（研究指導科目）」の区分により体系的に編成される。共通選択必修科目は、博士の学位に相応しい高度な専門知識と学識の修得及び研究遂行能力の醸成を目的とする。博士論文特別演習は、博士論文執筆のための指導を目的とする。

共通選択必修科目は、専門分野に応じてクラスター（経済学クラスター、公共経営学クラスター、国際関係学クラスター）毎に開講される。学生は1年次に専門とするクラスターを選択し、その開講科目をクラスターの指定必修科目として履修し、高度な専門知識を修得し、研究遂行能力を醸成する。また学生は、他のクラスター開講科目から必ず1科目以上履修しなければならない。これは、複数の専門分野に関連する研究課題にも対応できる研究能力の醸成の場を提供するとともに、博士の学位に相応しい学識として関連分野における素養を涵養することも狙いとしている。このようなカリキュラム編成とクラスター横断的な履修方法により、国際関係学の包括的な枠組みの中で学際的な教育を行い、グローバルな視野を持った人材養成を行う。

博士論文特別演習は、博士論文の指導を行うため、1年次から3年次まで配当される。1年次は、上述の共通選択科目の履修により高度な専門知識と学識の修得及び研究能力の醸成を目指しつつ、博士論文特別演習Ⅰを履修し、博士論文の指導を受ける。そして1年次に修得した知識と学識及び醸成した研究能力を2年次に配当される博士論文特別演習Ⅱ、3年次に配当される博士論文特別演習Ⅲで更に発展させ、博士論文執筆に取り組む。

【授与する学位】

博士（経済学）、博士（公共経営学）、博士（国際関係学）

●経済学クラスター履修モデル

数理・統計的分析手法を包含した経済学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関その他の組織体において経済開発・経済政策に関連した業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

	秋学期	冬学期	春学期
1年次	◎必修科目 ・マクロ経済学特論	◎必修科目 ・ミクロ経済学特論	◎必修科目 ・計量経済学特論
	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅰ		
2年次	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅱ		
3年次	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅲ		

●公共経営学クラスター履修モデル

公共経営学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関で効率的な経営管理などの業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

	秋学期	冬学期	春学期
1年次	◎必修科目 ・公共経営学特論	◎必修科目 ・政治とガバナンス特論	◎必修科目 ・公共政策プロセス特論
	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅰ		
2年次	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅱ		
3年次	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅲ		

●国際関係学クラスター履修モデル

安全保障など複雑性を増している国際関係学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関で外交や安全保障政策の立案・執行などの業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

	秋学期	冬学期	春学期
1年次	◎必修科目 ・国際関係論の諸理論特論	◎必修科目 ・国際政治経済学特論	◎必修科目 ・人権とグローバル・ジャスティス特論
	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅰ		
2年次	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅱ		
3年次	◎研究指導 博士論文特別演習Ⅲ		

【主要科目の特長】 研究指導科目の目標

博士論文特別演習Ⅰ

経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践・指導を行い、博士論文指導を行う。博士論文特別演習Ⅰでは、先行研究の調査を行ったうえで研究題材を特定化し、研究計画書の作成を中心に指導する。

博士論文特別演習Ⅱ

経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行う。特別演習Ⅱでは、研究計画書に沿って論文執筆を指導し、基本的に一篇以上の研究論文を仕上げることを目指す。

博士論文特別演習Ⅲ

経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行う。特別演習Ⅲでは、(原則として) 三編の学術論文で構成される学位論文の完成を目指す。

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

○経済学クラスター

博士(経済学)の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 現実の問題を分析するために必要な、最先端のミクロおよびマクロ経済学の最新の知識
- 実証分析のための、最先端の統計、計量およびその他のデータ分析能力を有し、それを経済問題の分析に応用する能力
- 十分な計量手法に関する知識を有し、それを現実の経済政策の分析評価に用いる能力
- 最新の分析手法を援用し、学術論文を仕上げる能力

スキル

- 経済学の理論的および実証的知識を援用し、重要な現実の経済問題を分析する能力
- 経済問題や経済政策を評価するための経済学の専門能力
- データに基づいた実証分析を行うための数学および統計学の高度な知識
- 経済学の専門的セミナーにおけるプレゼンテーション能力、および政府および民間部門に適切な助言を行う能力
- 重要な経済問題に関して、専門ジャーナルに論文を公表する能力

学術的態度

- 経済および社会問題を独力で論理的かつ創造的に考察する姿勢
- 専門誌を常にフォローし、質の高い研究に関わる知識を習得する姿勢
- 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え
- 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度

○公共経営学クラスター

博士(公共経営学)の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国や地方政府の基本的な役割や責任への知識
- 公共政策過程における重要な段階についての理解。また、各段階において重要な個人、団体等のアクターの役割についての理解。

- 公共政策における対立・係争を分析する能力。また、政策的な手段を使い、対立・係争を平和的に解決するための手法。
- 公共政策過程における説明責任と、政策や政府運営におけるパフォーマンスについての理解。
- 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGO など政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解。

スキル

- 公共経営、公共政策に係る知識
- 公共経営、公共政策に係る分析的な文章作成スキル
- 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、自分の言葉で要約し、さらに批判的に検討する能力
- 国や地方政府が直面する、公共経営、公共政策に係る問題について、批判的に検討・議論する能力

学術的態度

- 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え。
- 公共政策に係る情報提供や分析に貢献する心構え。
- 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解。

○国際関係学クラスター 博士（国際関係学）

博士（国際関係学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国際関係論内の専攻分野における高度な知識
- 学術的研究における認識論的・方法論的パラダイムの知識
- 国際関係論分野における大学院レベル教育において指導できるのに十分な知識
- 国際的諸問題を扱うための理論と実践とを繋ぐ全体論的アプローチの知識

スキル

- 国際諸問題を深く理論的に理解する能力
- 国際関係論分野の最先端研究領域を切り開く能力
- 学術的出版物に貢献できる研究を行う能力
- 学術的誠実さの遂行に知的に専念する能力

学術的態度

- 学術的分野のさらなる発展に寄与する姿勢
- 獲得した知識を将来の研究者を教育するために用いる態度
- 学術団体を支援する活動に関わる態度
- 専門的実践家として政策立案分析に関わる姿勢

<<修士課程>>

1. 国際関係学研究科 国際関係学専攻 修士課程

【教育研究上の目的】

国際関係学研究科は、時代の潮流を見通す長期的なビジョンと多様な価値観を認識し理解できるグローバルな視野を有し、国際社会が抱える広範囲で多様な課題に対して高度な分析能力と問題解決能力を発揮できるプロフェッショナルを養成することを教育研究上の目的としています。

目的に応じ、学生の履修課程（国際関係学プログラム、国際開発学プログラム、公共経営・政策分析プログラム、日本・グローバル開発学プログラム）を編成しています。

●国際関係学プログラム（IRP）

【授与する学位】 修士（国際関係学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士（国際関係学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国家の外交及び安全保障政策についての基礎的な知識
- グローバルな政治経済学と国際経済秩序システムの知識
- 国際紛争解決に役立つ道具・方法・手段に必要な知識
- 諸国家間での行為における人権と正義についての知識

スキル

- 国際関係論分野の基礎的知識を明示する能力
- 国際関係の動態を理解する能力
- 国際関係諸問題を学術的・批判的に分析する能力
- 国際関係諸問題についての政策議論に参加・意見交換する能力

学術的態度

- 政策分析と評価における学際的なアプローチを取る態度
- 国際社会の平和・安定・発展へ寄与する姿勢
- 政策立案に際し知的に刺激的で創造力に富むアイデアを展開する態度
- 政府・外交・国際ビジネス・非政府組織・国際機関での活躍に必要な能力と知識を装備

【主要科目の特長】 基礎科目の目標

比較政治論

This course is a broad overview of the comparative politics subfield. It introduces the main concepts and theories of the field and their application to empirical issues (in class we discuss such questions as how can the regimes in Latin America, South Africa or Iran be classified? Is Russia a democracy? What are the functions of the President of Germany and how do they differ from those in the USA? Why has Northern Italy developed faster than the South? Has the process of democratization in Myanmar been completed after the elections in 2015?).

対外政策決定論

This course deals with the issues in foreign policy making from a broad comparative perspective. It studies the ways states formulate their foreign policies and how these policies are implemented. The course also examines external and internal factors that shape states' foreign policies, how states interact and why foreign

policy choices may differ between states. It analyzes not only the political system but also cultural and historical factors that influence the foreign policy decision-making.

国際関係史

This course provides a survey of history of international relations. Its objectives are to familiarize students with the basic outline of the history of international relations, and to give students an understanding of the background of the major international political issues today. A solid foundation of the history of international relations is essential for anybody who is interested in working for the global community. This course is to explore the historical developments of international relations, covering major events including the origin of international system with the Treaty of Westphalia, imperialism, World War I & 2, the Cold War System, and the Post-Cold War era.

国際人権論：文化、ジェンダー、平等

This course aims to provide students with an understanding of the academic study of human rights and global justice. Especially relevant to government officials and those interested in a career in an NGO.

国際経済論

The course is designed to study the international economic systems, including international trade, international capital transfer and international monetary system, and to discuss an international economic order to sustain the economic systems, from both historical and theoretical analysis points of view.

国際機構論

This course explores theoretical and practical perspectives on the formation, processes, functions, and effects of international organizations in contemporary world politics. Questions include how ideas about cooperation among sovereign states in the anarchical international system have emerged, been put into practice, and influenced state behavior. This course also examines the current dynamic aspects of international cooperation with the introduction of the concepts of global governance and orchestration.

国際政治経済論

The aim of this course is to provide a solid foundation for those who are attempting to comprehend the above mentioned roles and behaviour, and key regional and global issues that will affect the everyday lives of individuals. The IPE is an interdisciplinary academic field within international relations which draws inputs from international politics, international economics, cultural studies, and history. The course covers major theories, concepts and issues of IPE, both comparative and international.

国際政治学

This course seeks to help students understand how states behave, why and under what conditions states compete or cooperate, and how international institutions and norms influence and are influenced by state behavior. For this purpose, the course introduces the major theoretical perspectives for international relations. Students are expected to understand and evaluate competing theories and approaches and to apply different perspectives to substantive issues in contemporary international relations.

デジタル世界の国際安全保障

This course discusses key aspects of contemporary international security with special focus on the aspects of digital transformation.

Career Relevance: Students who aim at in fields of security and diplomacy, or those who are planning to take advanced degree in this area are recommended to take this course. This course will provide students with a foundation for further studies on strategies and policies on international/national security with special focus on digitization.

【国際関係学プログラム 履修の方法】

学位		修士 (国際関係学)	
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・比較政治論 ・対外政策決定論 ・国際関係史 ・国際人権論：文化、ジェンダー、平等 ・国際経済論 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際機構論 ・国際政治経済論 ・国際政治学 ・デジタル世界の国際安全保障
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・開発政策・プログラムの分析 ・異文化コミュニケーション論 ・外交と国家 ・環境・持続可能な開発と人間の安全保障 ・基礎経済学 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際市民社会論：市民と民主主義 ・国際法 ・難民・移民と人間の安全保障 ・リサーチ方法論 ・安全保障と戦略：国家と国際関係からの視点
選択科目 12 単位	2 単位以上	国際経営学研究科開講科目から履修	
	10 単位以上	履修推奨科目 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ対外政策論 ・中国外交論 ・グローバル・イシュー ・日本の国際関係と外交政策 ・ユーラシアにおける国際関係 ・中東における国際関係 ・アフリカ開発の課題 ・日本の開発協力の実践 ・日本政府と政治 ・日本の国際協力政策 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策 ・日本の財政と行政 ・地方自治体と公共サービス ・政治制度とガバナンス ・世界の中の近代日本 ・戦後の日本経済 ・戦後の日本政治 ・公共セクターの人的資源管理論 ・現代日本における社会問題 上記の他、全開講科目より選択可。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可。
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

【国際関係学プログラム 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	国際政治論 対外政策決定論 デジタル世界の国際安全保障 国際関係史	国際経済論 国際政治経済論 国際機構論	特別演習 I 比較政治論
	選択	Academic English I	開発政策とグローバル化 Academic English II	リサーチ方法論 中東における国際関係 Academic English III
2	必修	特別演習 II	特別演習 III	
	選択	国際人権論：文化、ジェンダー、平等 開発政策・プログラムの分析 マーケティング・マネジメント English for Research Writing	公共政策プロセス 外交と国家 English for Thesis Writing	異文化コミュニケーション English for Professional Communication

●国際開発学プログラム (IDP)

【授与する学位】 修士 (経済学)、修士 (国際開発学)

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士 (経済学) の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 現実の問題を分析するために必要な、ミクロおよびマクロ経済学の高度な知識
- 実証分析のための、統計、計量およびその他のデータ分析能力
- 学際的な知識を尊重し、経済学がいかに関係しているかを認識する能力
- 最新の研究成果を経済問題の分析に応用する能力

スキル

- 経済学の概念を応用し、現実の経済的および社会的問題に経済学を適用する能力
- 経済問題や経済政策を分析するための戦略的思考能力
- データに基づいた実証分析を行うために必要とされる数学および統計学の知識
- 経済問題に対する適切な助言を政府および民間部門に行うことができるコミュニケーション能力
- あらゆる状況下でチームの一員として協力的に行動する能力

学術的態度

- 経済および社会問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ
- 経済および社会問題を理解するために、適切な分析力を適応する姿勢
- 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え
- 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度
- 経済学の知識を現実の経済問題の解決に用いる姿勢

【主要科目の特長】 基礎科目の目標

修士 (経済学) の基礎科目

経済経営数学

Mathematics for Economics and Management is an intermediate course in calculus which covers topics such as functions, limits, derivatives, integration, and optimization.

ミクロ経済学 I : 価格理論

Microeconomics is mainly concerned with how individuals and firms behave in markets with different degrees of competitiveness. This course provides students with the basic concepts, analytical framework and way of thinking of microeconomics.

ミクロ経済学 II : 戦略的行動と情報分析

The first part of the course deals with game theory and strategic behavior. Fundamental topics covered include static games, dynamic games, and their applications. The second part of the course reviews the consumer and producer theory and deals with the general equilibrium and welfare theorem.

マクロ経済学 I : 所得理論

This course is designed to provide students a solid foundation in Macroeconomics. The topics to be covered consist of (i) a brief introduction of national income, (ii) the meaning of inflation and its relation to the monetary system, (iii) the models of exchange rates, (iv) the determination of unemployment, and (v) basic economic growth theories.

マクロ経済学 II : 景気循環と成長理論

This course continues the training in macroeconomic theory for students in the economics or international development program. The content of this course focuses on the modern business cycle theories. By studying these theories, we could understand the long-

standing questions - what causes the business cycle, and what can we do about it?

統計学

This course is an introduction to probability and statistics. The course covers descriptive statistics, basic probability theory, estimation, hypothesis testing, and regression analysis.

計量経済学

The purpose of this course is to provide an introduction to the key econometric concepts. The emphasis will be placed on understand empirical economic research methods and how those methods can be applied on empirical studies for causal inference.

【国際開発学プログラム：修士（経済学） 履修の方法】

学位		修士（経済学）	
科目区分		科目名	
必修科目 20 単位	基礎科目 14 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・経済経営数学 ・ミクロ経済学 I：価格理論 ・ミクロ経済学 II：戦略的行動と情報分析 ・マクロ経済学 I：所得理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学 II：景気循環と成長理論 ・統計学 ・計量経済学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 8 単位または 12 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・農業開発と資源収入管理 ・開発政策・プログラムの分析 ・ビジネス・プレゼンテーション ・費用便益分析 ・クロスセクション・パネルデータ分析 ・開発経済学 ・開発政策とグローバル化 ・環境・医療経済学 ・進化する開発パラダイムと援助の変遷 ・金融市場と金融規制 ・グローバルマーケットセミナー ・産業組織論と政策分析 ・所得格差と貧困 ・制度・戦略的行動と経済発展 ・国際経済論 ・国際金融論 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際貿易論 ・アフリカ開発の課題 ・日本の企業金融と日本の金融システム ・日本の国際協力政策 ・日本の財政と行政 ・日本の教育システム ・労働経済学 ・マクロ経済モデル分析 ・上級マクロ経済学：政策分析 ・金融経済論と政策分析 ・開発途上国の金融政策論 ・政策評価論 ・財政学 ・公的予算と財務 ・リサーチ方法論 ・時系列分析
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から選択	
	10 単位	全開講科目より選択。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【国際開発学プログラム：修士（経済学） 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	経済経営数学 マクロ経済学 I ミクロ経済学 I 統計学	マクロ経済学 II ミクロ経済学 II 計量経済学	特別演習 I
	選択	Academic English I	労働経済学 Academic English II	費用便益分析 パネルデータ分析 企業財務
2	必修	特別演習 II	特別演習 III	
	選択	環境・医療経済学 国際金融論 産業組織論と政策分析 English for Research Writing	上級マクロ経済学：政策分析 English for Thesis Writing	国際貿易論

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士(国際開発学)の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 経済学、公共経営学、国際関係学における高度な知識
- 地域、国およびグローバルなレベルでの開発問題を識別する能力
- 習得した知識を応用して開発問題を分析する能力
- 開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力
- 政策策定に影響力のある政策担当者に経済改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝える能力
- 経済改革の策定とその効果的な実施のために、非政府団体や市民団体など多くの利害関係者を巻き込み連携する能力

スキル

- 地域、国およびグローバルなレベルでの価値観や制度の多様性を適切に理解し、開発のための実践的リーダーとして行動する能力
- 経済学、公共経営学および国際関係学の理論を援用し、開発問題を適切に分析する能力
- 詳細な分析を通じて開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力
- 現実の経済改革を推進するため、政策担当者、アカデミア、市民団体を含むすべての利害関係者と連携し、改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝えることができる能力
- 開発の専門家としての視野を広げるため、他分野の専門性を尊重し、学際的なチームで働くことができる能力

学術的態度

- 開発問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ
- 常に最新の研究動向を理解し、高い分析能力を維持する姿勢
- 現実の経済改革に貢献するという強い心構え
- 他分野の専門性を尊重する態度
- 開発の現場での多様な価値観や制度を尊重する姿勢

【主要科目の特長】 基礎科目の目標

修士(国際開発学)の基礎科目 (他は修士(経済学)と共通)

開発経済学

Why is the income gap between developed and developing countries so huge? What promote or inhibit economic growth? What can be done to alleviate poverty? Development economics is a branch of economics that aims to find answers to these questions.

After an introduction to how to measure poverty, this course will focus on several important topics such as institutions, education, international trade, microfinance, and corruption, and study how these factors influence poverty and economic growth.

国際貿易論

We will investigate why nations trade, what they trade, and who gains (or not) from trade. We will then analyze the motives for countries or organizations to restrict or regulate international trade and study the effects of such policies on economic welfare. Topics covered include: the relationship between trade and wage inequality, multinationals and foreign direct investment, international trade agreements and current trade policy disputes. We will also spend some time discussing aspects of the current debate on "globalization" such as the use of international labor standards, interactions between trade and environmental concerns, and the role of non-government organizations (NGOs).

【国際開発学プログラム：修士（国際開発学） 履修の方法】

学位		修士（国際開発学）	
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発経済学 ・ 国際貿易論 ・ 計量経済学 ・ ミクロ経済学 I：価格理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロ経済学 II：戦略的行動と情報分析 ・ マクロ経済学 I：所得理論 ・ マクロ経済学 II：景気循環と成長理論 ・ 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業開発と資源収入管理 ・ 開発政策・プログラムの分析 ・ ビジネス・プレゼンテーション ・ 費用便益分析 ・ クロスセクション・パネルデータ分析 ・ 環境・医療経済学 ・ 進化する開発パラダイムと援助の変遷 ・ 金融市場と金融規制 ・ グローバルマーケットセミナー ・ 産業組織論と政策分析 ・ 所得格差と貧困 ・ 制度・戦略的行動と経済発展 ・ 国際金融論 ・ リサーチ方法論 ・ 時系列分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の企業金融と日本の金融システム ・ 日本の経済発展と成長するアジア ・ 日本の国際協力政策 ・ 日本の財政と行政 ・ 日本の教育システム ・ 労働経済学 ・ マクロ経済モデル分析 ・ 上級マクロ経済学：政策分析 ・ 経済経営数学 ・ 金融経済論と政策分析 ・ 開発途上国の金融政策論 ・ 政策評価論 ・ 財政学 ・ 公的予算と財務
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から選択	
	10 単位	全開講科目より選択。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【国際開発学プログラム：修士（国際開発学） 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	マクロ経済学 I ミクロ経済学 I 統計学	マクロ経済学 II ミクロ経済学 II 計量経済学	開発経済学 国際貿易論 特別演習 I
	選択	農業開発と資源収入管理 Academic English I	国際機構論 Academic English II	政策評価論
2	必修	特別演習 II	特別演習 III	
	選択	環境・医療経済学 日本の開発協力の実践 開発政策・プログラムの分析 English for Research Writing	地域資源とソーシャル・ビジネス English for Thesis Writing	環境・持続可能な開発と人間の安全保障

●公共経営・政策分析プログラム

【授与する学位】 修士（公共経営学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士（公共経営学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国や地方政府の基本的な役割や責任への知識
- 公共政策過程における重要な段階についての理解。また、各段階において重要な個人、団体等のアクターの役割についての理解。
- 公共政策における対立・係争を分析する能力。また、政策的な手段を使い、対立・係争を平和的に解決するための手法。
- 公共政策過程における説明責任と、政策や政府運営におけるパフォーマンスについての理解。
- 公共セクターにおける管理職や政策アナリストが果たす役割についての理解。
- 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGO など政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解。

スキル

- 公共経営、公共政策に係る知識
- 公共経営、公共政策に係る分析的な文章作成スキル
- 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、自分の言葉で要約し、さらに批判的に検討する能力
- 政府内での政策形成過程や市民との討議で必要とされる、議論を有効かつ円滑に進めるスキル（いわゆるグループファシリテーション）
- 公共経営、公共政策について、プレゼンテーションをはじめとする人前で論理的に話すスキル
- 国や地方政府が直面する、公共経営、公共政策に係る問題について、批判的に検討・議論する能力

学術的態度

- 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え。
- 公共政策に係る情報提供や分析に貢献する心構え。
- 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解。

【主要科目の特長】 基礎科目の目標

計量経済学

The purpose of this course is to provide an introduction to the key econometric concepts. The emphasis will be placed on understand empirical economic research methods and how those methods can be applied on empirical studies for causal inference. Topics covered in the course include simple and multiple regression analysis, statistical inference, and specification problems. Students will also learn how to use Stata to generate statistics and perform basic data analysis.

政策分析入門

This Introduction to Policy Analysis provides basics of policy analysis. Policy analysis

is to explore the causal relationship between policy instrument and its consequences and estimate the net advantages of a public policy. It discusses nature of public policies, art and craft sides of policy analysis, development of policy arguments, basics of cost-benefit analysis, and causality assessment using systems thinking.

公共組織経営

This course provides an introduction to research and theories in public management and develops managerial perspectives, knowledge, skills, and professional standards for future public managers. Specifically this course addresses distinctive features of the public sector, administrative environments, organizational structure and process (bureaucracy), communications, conflict management, public service motivation, managerial leadership, administrative reform and reinvention, and performance management.

マクロ経済学 I : 所得理論

This course is designed to provide students a solid foundation in Macroeconomics. The topics to be covered consist of (i) a brief introduction of national income, (ii) the meaning of inflation and its relation to the monetary system, (iii) the models of exchange rates, (iv) the determination of unemployment, and (v) basic economic growth theories.

行政学

This course aims to introduce graduate students to the political and legal foundations of public administration as well as the historical evolution of the field. After the completion of this course, students will be able to: (1) Describe distinctive features of public administration; (2) Identify and analyze key stakeholders and challenges in public administration; and (3) Be familiar with the historical development and legal foundations of public administration

公的予算と財務

This course aims to improve students' understanding of how government at different levels manages its purse, money from taxpayers and citizens, for better results, equipping students with both theoretical perspectives and practical analytical skills. The topics covered include, but are not limited to, budgetary institutions and process, roles of key budget actors and decision-makers, budgetary constraints, budget systems and reform, key revenue sources and forecasting, capital budgeting, debt management, intergovernmental fiscal relations, and a diverse set of skills and tools in preparing and implementing budgets.

公共政策プロセス

This course is designed to acquaint you with the theoretical and practical dimensions of developing and managing effective public policy which includes your role as a policy analyst and as a proactive participant in the broader policy process working for a program or an agency. The overall focus of the class is on understanding the policy process, how to facilitate dialogue in the policy process with citizens and elected officials, how to frame issues and conduct policy analysis, and manage the policy process from agenda setting through implementation.

【公共経営・政策分析プログラム 履修の方法】

学位		修士（公共経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	応用計量経済学(または計量経済学) 政策分析入門 公共組織経営 ミクロ経済学 I：価格理論	行政学 公的予算と財務 公共政策プロセス 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究手法 ・環境政策と災害管理 ・産業組織論と政策分析 ・情報政策管理 ・日本の財政と行政 ・日本政府と政治 ・公的部門のリーダーシップ ・地方自治体と公共サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学 I：所得理論 ・経済経営数学 ・政治制度とガバナンス ・公共セクターの人的資源管理論 ・公共組織論 ・官民連携論 ・リサーチ方法論 ・サーベイ・データと因子分析
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から選択	
	10 単位	全開講科目より選択。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【公共経営・政策分析プログラム：修士（公共経営学） 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	政策分析入門 公的予算と財務 統計学 ミクロ経済学 I：価格理論	応用計量経済学 公共組織経営 公共政策プロセス	行政学 特別演習 I
	選択	Academic English I	国際機構論 Academic English II	政策評価論 リサーチ方法論 事例研究手法
2	必修	特別演習 II	特別演習 III	
	選択	開発政策・プログラムの分析 地方自治体と公共サービス 官民連携論 English for Research Writing	組織行動論 公共セクターの人的資源管理論 English for Thesis Writing	政治制度とガバナンス English for Professional Communication

2. 国際関係学研究所・国際経営学研究所修士課程共通プログラム

●日本・グローバル開発学プログラム (JGDP: Japan-Global Development Program)

【プログラムの目的】

JDP は国際関係学研究所の修士課程と国際経営学研究所の修士課程に本学が初めて共通の履修課程として導入する国際人材育成プログラムです。日本の経済発展と企業成長を基礎材料として、普遍性のある発展と成長の論理を政治・経済・経営の分野にまたがって学びます。

【授与する学位】

修士 (国際関係学)、修士 (経済学)、修士 (国際開発学)、修士 (公共経営学) または修士 (経営学)

【対象となる方・学習目標】

1. 留学生が、日本の経済発展の背後にある経験から論理と教訓 (成功例、失敗例の両面) について学び、自国の経済発展戦略を考えるための知識とスキルを修得する。
2. 日本人が、英語で日本の歴史・文化、経済発展の論理や教訓を学ぶことにより、グローバルな視点から自国を海外へ発信する能力を養う。
3. 将来国際場で活躍する学生が、日本の経験をケース材料として、経済発展と企業成長の普遍的論理について学ぶ。

【カリキュラム】

国際関係学研究所の日本型開発学プログラム (JDP-IR) が開講する JDP 関連科目では、主に日本の明治維新以降における国際政治経済環境や戦後日本経済の成長の特徴について教育し、さらに日本の外交政策、安全保障、対外支援政策、財政と行政、教育システムが日本の発展にどのように影響を与えたかについて、教育が行われます。

国際経営学研究所の日本型開発学プログラム (JDP-IM) が開講する JDP 関連科目では、明治維新以降の日本の産業発展とその背後のイノベーション、日本型経営論、企業金融とそれを支える金融システム、日本型雇用慣行と人的資本の蓄積、ものづくり経営、中小企業の発展、企業リーダーなどが日本の経済発展に与えた影響について教育が行われます。

これらの JDP 関連科目では、理論的基礎と国際比較の視点を重視した内容が提供されます。

【主要科目の特長】 JGDP 関連科目 (国際関係学研究所提供) の目標

世界の中の近代日本

The course aims at providing the knowledge and instruments through which analyse and understand Japan's international relations both in their historical evolution and in the contemporary world. The extended historical period covered in this course allows to gain a long-term perspective on the patterns and transformations in Japan's relations with the world

国際政治経済と日本発展の軌跡

This course focuses on Japan's transformation in the international political economy. First, it introduces the theory of international political economy to present a basic framework to analyze Japan's position and its economic development in the international system. Second, three classes are designed to explain how Japanese political economy was designed in order to fit into different international environments in the pre-modern era, the Meiji and prewar era, and the postwar era. Then, Japanese political

economy transformed as Japanese economy grew to experience dual economy, trade friction, bubble economy and its burst.

日本の国際関係と外交政策

The course seeks to understand post-war Japanese foreign policy and its impact on development from diverse perspectives: international structures and systems, domestic politics, and individual leaders. The perspective of domestic politics encompasses both institutional mechanisms of bureaucracy and ideologies, such as nationalism and revisionism.

日本の国際協力政策

The course will look at various aspects of Japan's IDC implemented primarily through its official development assistance (ODA). It will discuss its systems, historical backgrounds, major characteristics, and policy tools, styles, and business models employed therein, among others. Based on these observations, the course will discuss the advantages and limitations of Japan's IDC. It will also try to compare Japan's IDC with IDC done by other actors. The course will look at a number of actual cases of projects and programs, preferably those that have been implemented in the home countries of the enrolling students.

日本の開発協力の実践

This course will attempt to shed light on the experience of Japan's own development and its development assistance, in the context of today's development agendas. The course will examine and evaluate various experiences and policies of Japan, studying them on their historical context and comparing them with those of other countries and organizations.

戦後の日本経済

This course analyzes the postwar Japanese economy from both theoretical and empirical perspectives. The Japanese economy achieved high economic growth and overcame the oil crises after World War II with high economic growth in the 1950s and the 1960s, which was called "Japan's economic miracle. The course analyzes the factors that lay behind the development of the Japanese economy, focusing on the roles of the government and of the private sector.

戦後の日本政治

This course is designed to give students a general introduction to the political system of Japan. The contents of the course will include the principles of political culture, political institutions and public policymaking. The most important goal is to gain the basic understanding of the current politics.

日本の安全保障政策

The course discusses evolution of Japan's national security policy with special focus on the period since the end of WWII to the date. The course also refers to longer history of Japan particularly after the Meiji Restoration in 1868 to provide students with basic knowledge on the background of post-WWII security policies and strategies.

日本の財政と行政

The course analyzes the system of Japanese public finance and administration. After World War II, the Japanese government introduced Keynesian policy to strengthen social infrastructures that stimulated both demand side and supply side of the economy with a large amount of government expenditure. In the course, the role of central and local government is examined elucidating the public money flows through taxation system, the Local Allocation Tax Program (LATP), the Fiscal Investment and Loan Program (FILP) and so on.

日本の教育システム

This course provides an introduction to the field of economics of education with a

specific focus on Japan's education system and policy reforms. Education is an important factor for growth both at the individual level and the country level particularly for developing countries. The course reviews Japan's education systems and covers a wide variety of topics ranging from human capital development to economic development to discuss and quantify the impact of educational policies.

【主要科目の特長】 JGDP 関連科目（国際経営学研究科提供科目）の目標

日本の産業発展

The purpose of this course is two-fold. One is to give the students a broad understanding on how Japanese industries developed. Another is for the students to learn logical frameworks to understand those Japanese development and learn their theoretical essence

日本的経営と企業統治

This course will review Japanese style management's historical background and economic rationality behind it. This course will examine the impact of Japanese corporate governance system on various management practices in Japanese companies.

日本の企業金融と金融システム

This course is primarily designed to provide, through cases, academic papers, and lectures, in-depth analyses of concepts and techniques used in Japanese corporate finance and financial systems. We extensively discuss the financial implications of Japanese corporate finance and financial systems as well as their impacts on Japanese Development.

日本の雇用慣行と人的資本の蓄積

Upon completion of this course, student should be able to: 1) Understand the objectives and advantages of Japan Human Capital practices; 2) diagnose the business environment and apply the best human capital practices to pursuit business goals; 3) apply Japan Human Capital practices to the development stages of the industry and economics.

日本の中小企業

The objective of this course is to introduce how small to medium-sized firms (or often called SMEs: small and medium enterprises) have developed in Japan. This course is offering an opportunity to learn SME issues and their impact on development in collaboration with JICA (Japan International Cooperation Agency) under the JICA Program with Universities for Development Studies. A series of lectures will be delivered mainly by invitee JICA staff with experiences of working for the headquarters in Tokyo and overseas, etc.

日本のビジネスリーダー

The learning objectives of this course are two-fold. One is to give the students a broad understanding on how Japanese business leaders acted in the process of the industrialization and economic growth. Another is for the students to learn logical frameworks on entrepreneurship in general.

The beginning two sessions focus on historical overview of the Japanese business leaders from the Meiji Restoration of 1868 to the present time. The next twelve sessions discuss on representative leaders. The last two sessions summarize the whole contents of the course and have a general discussion on entrepreneurship.

【日本・グローバル開発学プログラム履修の方法（専門分野：外交政策及び公共経営）】

研究科		国際関係学研究科	
専門分野 (Concentration)		外交政策	公共経営
学位		修士 (国際関係学)	修士 (公共経営学)
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	比較政治論 対外政策決定論 国際関係史 国際人権論：文化、ジェンダー、平等 国際経済論 国際機構論 国際政治経済論 国際政治学 デジタル世界の国際安全保障	応用計量経済学(または計量経済学) 政策分析入門 公共組織経営 ミクロ経済学 I：価格理論 行政学 公的予算と財務 公共政策プロセス 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 12 単位または 16 単位	JGDP 関連科目 (GSIR 提供科目)	世界の中の近代日本 日本の国際関係と外交政策 日本の開発協力の実践 日本の国際協力政策	戦後の日本経済 戦後の日本政治 日本の安全保障政策 日本の財政と行政 日本の教育システム
	JGDP 関連科目 (GSIM 提供科目)	日本の産業発展 日本的経営と企業統治 日本の企業金融と金融システム 日本の雇用慣行と人的資本の蓄積	日本のものづくり経営 日本のビジネスリーダー 日本の中小企業 日本の農業ビジネスと農政
自由選択科目		全開講科目より選択。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：外交政策）履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	国際政治論 対外政策決定論 デジタル世界の国際安全保障 国際関係史	国際経済論 国際政治経済論 国際機構論	特別演習 I 比較政治論
	選択	基礎日本語 I	戦後日本政治論 基礎日本語 II	日本の国際関係と外交政策 日本の安全保障政策 基礎日本語 III
2	必修	特別演習 II	特別演習 III	
	選択	国際人権論：文化、ジェンダー、平等 世界の中の近代日本 日本の開発協力の実践 基礎日本語 IV	中国外交論 外交と国家 基礎日本語 V	戦後日本経済論 日本の産業発展 基礎日本語 VI

【日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：公共経営） 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	政策分析入門 公的予算と財務 統計学 ミクロ経済学 I：価格理論	応用計量経済学 公共組織経営 公共政策プロセス	行政学 特別演習 I
	選択	基礎日本語 I	戦後日本政治論 基礎日本語 II	政策評価論 日本の国際協力政策 事例研究手法 基礎日本語 III
2	必修	特別演習 II	特別演習 III	
	選択	日本の財政と行政 地方自治体と公共サービス 官民連携論 基礎日本語 IV	日本の教育システム 日本政府と政治 基礎日本語 V	日本の雇用慣行と人的資本の蓄積 基礎日本語 VI

【日本・グローバル開発学プログラム履修の方法（専門分野：経済政策及び開発政策）】

研究科		国際関係学研究科 (GSIR)	
専門分野 (Concentration)		経済政策	開発政策
学位		修士 (経済学)	修士 (国際開発学)
科目区分		科目名	
必修科目 20-22 単位	基礎科目 14-16 単位	経済経営数学 ミクロ経済学 I：価格理論 ミクロ経済学 II：戦略的行動と情報分析 マクロ経済学 I：所得理論 マクロ経済学 II：景気循環と成長理論 統計学 計量経済学	開発経済学 国際貿易論 計量経済学 ミクロ経済学 I：価格理論 ミクロ経済学 II：戦略的行動と情報分析 マクロ経済学 I：所得理論 マクロ経済学 II：景気循環と成長理論 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 12-14 単位または 16-18 単位	JGDP 関連科目 (GSIR 提供科目)	世界の中の近代日本 日本の国際関係と外交政策 日本の開発協力の実践 日本の国際協力政策	戦後の日本経済 戦後の日本政治 日本の安全保障政策 日本の財政と行政 日本の教育システム
	JGDP 関連科目 (GSIM 提供科目)	日本の産業発展 日本的経営と企業統治 日本の企業金融と金融システム 日本の雇用慣行と人的資本の蓄積	日本のものづくり経営 日本のビジネスリーダー 日本の中小企業 日本の農業ビジネスと農政
自由選択科目		全開講科目より選択。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：開発政策）履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ 統計学	マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ 計量経済学	開発経済学 国際貿易論 特別演習Ⅰ
	選択	日本の開発協力の実践 基礎日本語Ⅰ	国際機構論 基礎日本語Ⅱ	進化する開発パラダイムと国際開発機関の援助政策の変遷 基礎日本語Ⅲ
2	必修	特別演習Ⅱ	特別演習Ⅲ	
	選択	環境・医療経済学 開発政策・プログラムの分析 基礎日本語Ⅳ	農業開発と資源収入管理 日本の教育システム 基礎日本語Ⅴ	日本の産業発展 戦後日本経済論 基礎日本語Ⅵ

【日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：経済政策）履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	経済経営数学 マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ 統計学	マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ 計量経済学	特別演習Ⅰ
	選択	日本の財政と行政 基礎日本語Ⅰ	国際経済論 基礎日本語Ⅱ	戦後日本経済論 国際貿易論 開発経済学 基礎日本語Ⅲ
2	必修	特別演習Ⅱ	特別演習Ⅲ	
	選択	環境・医療経済学 金融経済論と政策分析 基礎日本語Ⅳ	労働経済学 基礎日本語Ⅴ	日本の産業発展 基礎日本語Ⅵ

【日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：経営）履修の方法】

研究科		国際経営学研究科 (GSIM)	
学位		修士 (経営学)	
科目区分		科目名	
必修科目 23 単位	基礎科目 17 単位	企業財務 企業の社会的責任 (CSR) 論 財務会計学 国際経営 日本的経営と企業統治	マーケティング・マネジメント オペレーションズ・マネジメント 組織行動論 経営戦略
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 10 単位または 14 単位	JGDP 関連科目 (GSIM 提供科目)	日本の産業発展 日本の経営と企業統治 日本の企業金融と金融システム 日本の雇用慣行と人的資本の蓄積	日本のものづくり経営 日本のビジネスリーダー 日本の中小企業 日本の農業ビジネスと農政
	JGDP 関連科目 (GSIR 提供科目)	世界の中の近代日本 日本の国際関係と外交政策 日本の開発協力の実践 日本の国際協力政策	戦後の日本経済 戦後の日本政治 日本の安全保障政策 日本の財政と行政 日本の教育システム
自由選択科目 7 単位		全開講科目より選択。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：経営）履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	財務会計学 経営戦略 マーケティング・マネジメント	国際経営 組織行動論 企業の社会的責任論 日本型経営と企業統治	企業財務 オペレーションズ・マネジメント
	選択	サービス・マネジメント 基礎日本語 I	基礎日本語 II	日本の産業発展 日本の雇用慣行と人的資本の蓄積 日本のものづくり経営 基礎日本語 III
2	必修	特別演習 I	特別演習 II	特別演習 III
	選択	公共組織経営 日本の財政と行政 基礎日本語 IV	日本の中小企業 基礎日本語 V	日本のビジネスリーダー 基礎日本語 VI

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	財務会計学 経営戦略 マーケティング・マネジメント データ分析によるビジネス支援	国際経営 組織行動論 企業の社会的責任論	管理会計学 企業財務 オペレーションズ・マネジメント
	選択	Academic English I	Academic English II	人的資源管理とタレント・マネジメント
2	必修	特別演習 I	特別演習 II	特別演習 III
	選択	リーダーシップ サービス・マネジメント 新規事業創出とベンチャー English for Research Writing	企業戦略論 起業家精神とイノベーション English for Professional Communication	新興市場戦略論 ビジネス・プレゼンテーション English for Professional Communication

【修得すべき知識・能力】 <学修の目標と目的>

日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：経営）では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力</p> <p>本学の学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識</p> <p>本学の学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる
<p>リーダーシップ</p> <p>本学の学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる

3. 国際経営学研究科 国際経営学研究科専攻

【教育研究上の目的】

国際経営学研究科は、特に新興国の発展に寄与することに重点を置き、グローバル・ビジネスと社会的リーダーシップのための「賢明な」(すなわち社会的責任への使命感を持つ)人材を養成することを目的としている。

この目的の二つの重要な要素として、社会的責任 (SR) とグローバル・ビジネス (GB) に対する能力醸成がある。国際経営学研究科はこの目的達成に向け、募集活動、就職サポート、教育・研究・業務など様々な分野において革新的施策を実践していく。

国際経営学研究科の目的における SR は、研究科もその修了生も経済的利益のみに捉われず、社会的価値創出に対する使命感をもって活動すべきであるという信念に基づいている。

国際経営学研究科は、SR について主に以下の事柄に重点を置く。

- ステークホルダーである、日本企業、政府機関、地域社会等の社会的責任に対する施策を支援する
- 特にアジア、アフリカの新興国からの留学生のニーズに配慮しつつ、学生が社会的責任に対する使命感を持った指導者となるよう、教育活動を展開する。

●MBA プログラム（2年制）

【授与する学位】 修士（経営学）

【修得すべき知識・能力】 〈学修の目標と目的〉

MBA プログラム（2年制）は、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力 本学の学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識 本学の学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘するすることで示すことができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる
<p>リーダーシップ 本学の学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる
<p>問題解決能力 本学の学生は、置かれた特定の状況について得られたインプットを分析・理解し、適切な情報の分析評価のもとに確信の形成と最適解の選択を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重要課題（イシュー）を定式化・定義する能力を示すことができる ■ 必要に応じて多様な分析や計算を行うことができる ■ 特定の概念やデータを適切に解釈する能力を示すことができる ■ 複数の意思決定上の選択肢を比較評価し、最適と思われる選択を行うことができる
<p>経営における分野別の専門知識 本学の学生は世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 財務論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 情報技術とオペレーション・マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ マーケティング論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 会計学に関して十分な理解を有していることを示すことができる

【MBAプログラム（2年制）履修の方法】

学位		修士（経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 25 単位	基礎科目 19 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計学 ・管理会計学 ・企業財務 ・データ分析によるビジネス支援 ・組織行動論 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略 ・国際経営論 ・企業の社会的責任（CSR）論 ・マーケティング・マネジメント ・オペレーションズ・マネジメント
	特別演習 6 単位	特別演習 I、 II、 III	
選択必修科目 11 単位または 15 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表と経営分析 ・情報政策管理 ・リサーチ方法論 ・基礎経済学 ・クロスセクション・パネルデータ分析 ・環境政策と災害管理 ・マクロ経済学 I：所得理論 ・計量経済学 ・応用計量経済学 ・国際金融論 ・公共組織経営 ・Python によるデータ分析 ・ポートフォリオ・マネジメント ・起業とベンチャーファイナンス ・持続可能な世界のための財務管理 ・ファイナンスとフィンテック ・クオンツ投資運用と財務データ分析 ・派生商品とリスク管理 ・デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル ・データ管理とモデリング ・ビッグデータ分析 ・ビジネスのための人工知能 ・デジタル産業の世界的展望 ・日本社会のデジタル・トランスフォーメーション ・日本の産業発展 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の中小企業 ・日本のものづくり経営 ・日本的経営と企業統治 ・日本の雇用慣行と人的資本の蓄積 ・日本の企業金融と金融システム ・日本のビジネスリーダー ・日本の農業ビジネスと農政 ・人的資源管理とタレント・マネジメント ・サービス・マネジメント ・企業戦略論 ・新興市場戦略論 ・デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント ・起業家精神とイノベーション ・起業家精神と小事業開発 ・新規事業創出とベンチャー ・ビジネス・プレゼンテーション ・マーケティング・インテリジェンス ・戦略的ブランド・マネジメント ・顧客関係管理（CRM） ・デジタル・マーケティングとカスタマー・ジャーニー ・マーケティングのデータ分析論 ・データ分析によるビジネス支援 ・リーダーシップ ・交渉戦略 ・デジタルサプライチェーンマネジメント ・製品開発のマネジメント
自由選択科目		全開講科目より選択。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【MBAプログラム（2年制）履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春
1	必修	財務会計学 経営戦略 マーケティング・マネジメント データ分析によるビジネス支援	国際経営 組織行動論 企業の社会的責任論	管理会計学 企業財務 オペレーションズ・マネジメント
	選択	Academic English I	Academic English II	人的資源管理とタレント・マネジメント
2	必修	特別演習 I	特別演習 II	特別演習 III
	選択	リーダーシップ サービス・マネジメント 新規事業創出とベンチャー English for Research Writing	企業戦略論 起業家精神とイノベーション English for Professional Communication	新興市場戦略論 ビジネス・プレゼンテーション English for Professional Communication

【主要科目の特長】 基礎科目の目標

財務会計学

This course introduces concepts and mechanics of financial accounting. It covers preparation, interpretation, and analysis of corporate financial reports. It will help you to understand how well a company creates value and assess managers' contribution to the creation of value. By the end of the course, you will be able to feel comfortable with dealing with corporate financial reports.

管理会計学

This course introduces students to the evolving role of managerial accounting in digital business environments. The course highlights the informational need of managers in planning, controlling, and decision making, and shows how to take advantage of accounting information. The course will enable students to express real-world business problems in a systematic way and solve them by applying managerial accounting concepts and techniques.

Topics include cost estimation, cost analysis, activity-based costing, cost-volume-profits analysis, budgets and standards, responsibility accounting and transfer pricing, and decision-making in various business situations.

企業財務

The course provides major corporate finance topics, including present value concepts, valuation of securities, a firm and firm projects, financing mixes and capital structure issues, the weighted average cost of capital and impacts of leverage, and payout policy by means of interactive lectures, case discussion, homework with problem solving, and achievement tests including a final examination.

データ分析によるビジネス支援

This course will study the basic knowledge of data analytics skills, in particular, statistical skills, which will be applied in various business areas.

This course provides students with fundamental knowledge for various business areas such as Corporate Finance, Investment, Risk Management, Big Data Analytics, and Marketing etc. It is helpful for students seeking careers such as consultants, financial analysts, general managers, policy makers, and operational managers. This course is the prerequisite for several other courses.

企業の社会的責任 (CSR) 論

Corporate Social Responsibility (CSR) or sustainability is an increasingly important area for corporate managers (and for public policymakers) to handle in global business operations. This course introduces essential concepts and practices of sustainability management. We will examine several company case studies through the course to understand how the leading companies cope with different sustainability issues.

国際経営論

This course of international management is designed to provide student core knowledge for carrying out management in an international business context. Given the globalizing business world that we are living and working in, a better understanding of how to deal with international phenomenon and management has become a must.

マーケティング・マネジメント

This core marketing management course wants to provide the basic marketing principles as well as tools and methodologies to create a successful marketing plan.

組織行動論

This course provides essential understandings and skills in the field of Organizational Behavior (OB) to accomplish the School objective. We learn how we can effectively manage today's organizations and "people" inside. Organizations we deal with are profit-seeking corporations, public agencies, and all other forms of nonprofit bodies, given they consider their activities like work, not a hobby or mere socializing.

経営戦略

This course is an introduction on the fundamentals of strategic management. It introduces the basic tools, concepts and frameworks useful in conceiving a firm's strategy as an irreducible whole. Throughout the course, the essential task of students is to develop the ability to take an integrative perspective when making a decision in a specific business situation.

オペレーションズ・マネジメント

This course serves as an introductory course in Operations Management for MBA students. This course is the fundamental course of OM/IT/SCM Specialization at GSIM. This course is helpful for students seeking careers such as consultants, operational managers, general managers, financial analysts, and policy makers in manufacturing and service industries.

Upon completion of this course, students will be able to:

- (1) Demonstrate understanding of business knowledge on operations management.
- (2) Demonstrate understanding of Japanese way of operations management and quality control.

●MBA1 年制プログラム

【授与する学位】 修士（経営学）

【修得すべき知識・能力】 〈学修の目標と目的〉

MBA 1 年制プログラムは、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力</p> <p>本学の学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識</p> <p>本学の学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘するすることで示すことができる ■ 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる
<p>リーダーシップ</p> <p>本学の学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる
<p>戦略的意思決定</p> <p>本学の学生は、社会およびビジネスに関する多様性を適切に評価解釈し、それに基づいた戦略的な決定を下す能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織内外の戦略的状況・文脈を的確に読み取り、戦略的経営のコンセプトを適用・体現することができる ■ データ・情報を収集し適切な解釈を与えることができる ■ 顕著な重圧の元においても、戦略的意思決定を下すことができる

【MBA1 年制プログラム 履修の方法】

学位		修士（経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 20 単位	基礎科目 11 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会的責任（CSR）論 ・財務会計学 ・国際経営論 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織行動論 ・経営戦略 ・デジタル・ディスラプションの戦略論
	キャップストーン 3 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ・ブートキャンプ ・戦略シミュレーション ・インターナショナル・キャリア開発 	
	特別演習 6 単位	特別演習 I、 II、 III	
選択必修科目 12 単位	財務・会計 4 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・企業財務 ・Python によるデータ分析 ・派生商品とリスク管理 ・ファイナンスとフィンテック ・財務諸表と経営分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理会計学 ・ポートフォリオ・マネジメント ・クオンツ投資運用と財務データ分析 ・持続可能な世界のための財務管理
	マーケティング 4 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客関係管理 ・デジタル・マーケティングとカスタマー・ジャーニー ・マーケティングのデータ分析論 	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング・マネジメント ・マーケティング・インテリジェンス ・戦略的ブランド・マネジメント
	テクノロジー& マネジメント 4 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスのための人工知能 ・応用計量経済学 ・日本のビジネスリーダー ・ビジネス・プレゼンテーション ・新興市場戦略論 ・企業戦略論 ・データ分析によるビジネス支援 ・クロスセクション・パネルデータ分析 ・マクロ経済学 I：所得理論 ・データ管理とモデリング ・日本の産業発展 ・デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル ・デジタルサプライチェーンマネジメント ・起業とベンチャーファイナンス ・起業家精神とイノベーション ・環境政策と災害管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・人的資源管理とタレント・マネジメント ・情報政策管理 ・日本の企業金融と金融システム ・日本の雇用慣行と人的資本の蓄積 ・日本的経営と企業統治 ・日本のものづくり経営 ・リーダーシップ ・デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント ・製品開発のマネジメント ・交渉戦略 ・新規事業創出とベンチャー ・オペレーションズ・マネジメント ・サービス・マネジメント ・リサーチ方法論
自由選択科目 0 または 4 単位		全開講科目より選択	
修了要件単位数 32 単位と学位論文 または 36 単位と研究レポート			

【MBA プログラム（1 年制） 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春～夏
1	必修	企業の社会的責任論 財務会計学 経営戦略	国際経営論 組織行動論	デジタル・ディスラプションの戦略論 インターナショナル・キャリア開発 リーダーシップ・ブートキャンプ 戦略シミュレーション
	選択	マーケティング・マネジメント サービス・マネジメント	起業家精神とイノベーション 交渉論 マーケティング・インテリジェンス	ビジネスのための人工知能 English for Professional Communication

【主要科目の特長】 キャップストーン科目の目標

IMBA 独自のキャップストーン・コースは、プログラムの集大成として、プログラム最終学期にあたる夏季期間に開講される必修科目で、インターナショナル・キャリア開発、リーダーシップ・ブートキャンプ、戦略シミュレーションの3科目（各1単位、計3単位）が提供されます。キャップストーン・コースでは、科目の履修をとおしてそれまでに獲得した知識・理論を活用し、経営課題の解決策について議論します。

インターナショナル・キャリア開発

This course lies in the sense that its main focus is on you who participate in the course. Throughout this intensive course, you are strongly encouraged to think about and understand yourself in order to create your own career vision with a mission statement. Furthermore, this course requires you to set up your career goals that you want to achieve in the future. Those goals should be importantly congruent with your career vision. In the process of making your career vision and goals, you are required to evaluate yourself with regard to where you are and where you want to go; and who you are and what you want to become. In this respect, the course provides you useful assessment tools and techniques that are important to know yourself. After completing the course, you are expected to embark on your journey towards an established destination with your strong confidence.

リーダーシップ・ブートキャンプ

Through this course, students will experience “Assessment Center” program which is a standard leadership development program in global companies. By experiencing the real-world practice, students can see how their capability as a leader will be measured and how the development plan for leadership capability will be set up with ownership which is aligned with a corporate strategy. This experience will give students an opportunity to see how they will be developed in a business organization after graduation.

戦略シミュレーション

Strategy Simulation is an intensive interactive course where you compete in an online simulation to achieve the best profitability and market cap growth. Students will be divided into teams of three or four based on class size. Each team will be assigned a fictional automotive company. Playing the role of board members, your job is to make strategic decisions for your company across a wide range of areas including marketing product development and finance. This course is to give you some insight into what it is like using the skills studied in prior classes but now in a ‘live’ situation.

●デジタルトランスフォーメーションプログラム (DXP)

【授与する学位】 修士 (デジタル経営学)

【修得すべき知識・能力】 <学修の目標と目的>

修士 (デジタル経営学) の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>社会的責任意識</p> <p>学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘するすることで示すことができる ■ 社会のおよびビジネス的価値の創造における社会的責任に対してテクノロジーがもつ意味を理解できる
<p>リーダーシップ</p> <p>学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる ■ 戦略的イニシアチブを取り、組織変革をリードすることができる
<p>経営における分野別の専門知識</p> <p>学生は世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 財務論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 情報技術とオペレーション／サプライチェーン マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ マーケティング論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 会計学に関して十分な理解を有していることを示すことができる
<p>テクノロジーとデジタル変革</p> <p>学生は、最新のテクノロジー要素を適用して、新しいビジネスを創造したり、デジタル変革を通じて組織に競争力のある価値を追加することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最新のテクノロジーの動向を理解することができる ■ 適切なテクノロジー要素を用いてビジネスを創出し、組織に競争力のある付加価値を付けることができる ■ 組織のおよび環境的影響を考慮に入れながらデジタル変革を推進することができる

【デジタルトランスフォーメーションプログラム 履修の方法】

学位		修士（経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 20 単位	基礎科目 10 単位	<ul style="list-style-type: none"> データ分析によるビジネス支援 デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル ビジネス・コア 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント 起業家精神とイノベーション
	キャップストーン 4 単位	<ul style="list-style-type: none"> デジタルビジネスの倫理と CSR デジタル産業の世界的展望 デジタル時代のグローバル戦略 II リーダーシップ・ブートキャンプ 	
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 8 単位または 12 単位		<ul style="list-style-type: none"> 財務会計学 情報政策管理 デジタル化世界の国際安全保障 企業財務 Python によるデータ分析 ファイナンスとフィンテック データ管理とモデリング ビッグデータ分析 ビジネスのための人工知能 日本社会のデジタル・トランスフォーメーション 経営戦略 人的資源管理とタレント・マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業創出とベンチャー デジタル・ディスラプションの戦略論 デジタル時代のグローバル戦略 I マーケティング・マネジメント デジタル・マーケティングとカスタマー・ジャーニー マーケティングのデータ分析論 デジタルサプライチェーンマネジメント 環境政策と災害管理
自由選択科目 4 単位		全開講科目より選択	
修了要件単位数 32 単位と学位論文 または 36 単位と研究レポート			

【デジタルトランスフォーメーションプログラム 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春～夏
1	必修	データ分析によるビジネス支援 ビジネス・コア デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント	デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル 起業家精神とイノベーション	デジタルビジネスの倫理と CSR デジタル産業の世界的展望 デジタル時代のグローバル戦略 II リーダーシップ・ブートキャンプ
		特別演習 I	特別演習 II	特別演習 III
	選択	Python によるデータ分析	デジタル時代のグローバル戦略 I マーケティングのデータ分析論 ビッグデータ分析	ビジネスのための人工知能

【主要科目の特長】 基礎科目の目標

デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント

This course provides essential frameworks and associated keywords that help to understand digital transformation (DX). The course aims to investigate the following three core topics; DX structure, DX process and DX culture within an organization. Discussions around these themes are based on the notion of “sociotechnical system” which regards a work system as correlative interacting systems of the social system and the technical system. Also, in this course, we consider an organization as a capital creation system.

ビジネス・コア

After taking this course, participants are able to understand basic business questions and join the discussion in a business environment. Moreover, this course will serve as a stepstone for participants to study more advanced courses in business school.

データ分析によるビジネス支援

This course will study the basic knowledge of data analytics skills, in particular, statistical skills, which will be applied in various business areas.

This course provides students with fundamental knowledge for various business areas such as Corporate Finance, Investment, Risk Management, Big Data Analytics, and Marketing etc. It is helpful for students seeking careers such as consultants, financial analysts, general managers, policy makers, and operational managers. This course is the prerequisite for several other courses.

起業家精神とイノベーション

The learning objectives of this course are two-fold. One is to understand concepts of innovation and the essence of entrepreneurship. Another is to learn the historical context of innovations and entrepreneurial activities. For the sake of the second purpose, this class examines the Japanese modernization, economic growth, and dematurity process.

デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル

Sound knowledge of digital business and digital platform shall help companies of all sizes including the 'big, old' companies reimagine a digital future where rapid innovation fuels growth. Digital business promises to usher in an unprecedented convergence of people, business and things that disrupts existing business models - even those born of the Internet and e-business eras. This course uses the framework of five building blocks outlined in the text “Designed for Digital” and guide the students through the compelling and proven concepts of digital business. Among many other, platform business is unique in that they can connect and match people in an increasingly efficient manner.

●国際社会起業家プログラム

授与する学位：修士（社会起業経営学）

【修得すべき知識・能力】〈学修の目標と目的〉

修士（社会起業経営学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力</p> <p>学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識</p> <p>学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘するすることで示すことができる ■ 社会的責任を全うする組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる
<p>リーダーシップ</p> <p>学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる
<p>ビジネスの考え方を組み込んだ社会課題解決策</p> <p>学生は、社会課題を特定した上でその要因を分析し、ビジネスの考え方を組み込んだ持続可能な解決策を確立できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会課題を特定する能力を示すことができる ■ 社会課題の根本的な要因を分析する能力を示すことができる ■ 社会課題の要因に対する新たな解決策創出のために異なる考えを結び付ける能力を示すことができる ■ 社会課題への解決策を持続的に提供していくためのビジネスシステムを構築する能力を示すことができる

【国際社会起業家プログラム 履修の方法】

学位		修士（社会起業経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 14 単位	基礎科目 12 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計学 ・マーケティング・マネジメント ・起業家精神とイノベーション ・リーダーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源とソーシャル・ビジネス ・経済開発における政府と起業家の役割 ・企業の社会的責任（CSR）論
	特別演習 2 単位	特別演習 I、II、III	
長期フィールド実習 4 単位		長期フィールド実習	
選択必修科目 14 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・農業開発と資源収入管理 ・日本の農業ビジネスと農政 ・開発政策・プログラムの分析 ・日本のビジネスリーダー ・データ分析によるビジネス支援 ・デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル ・デジタルサプライチェーンマネジメント ・国際人権論：文化、ジェンダー、平等 ・国際機構論 ・国際政治経済論 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の雇用慣行と人的資源の蓄積 ・日本の国際協力政策 ・デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント ・管理会計学 ・日本のものづくり経営 ・新規事業創出とベンチャー ・組織行動論 ・難民・移民と人間の安全保障 ・日本の中小企業 ・経営戦略 ・デジタル産業の世界的展望
自由選択科目 2 単位		全開講科目より選択	
修了要件単位数 34 単位			

【国際社会起業家プログラム 履修モデル】

年次	区分	秋	冬	春～夏
1	必修	企業の社会的責任論 財務会計学 マーケティング・マネジメント 経済開発における政府と起業家の役割 特別演習 I	地域資源とソーシャル・ビジネス 起業家精神とイノベーション 組織行動論 特別演習 II	リーダーシップ 特別演習 III
	選択	新規事業創出とベンチャー 経営戦略	交渉論 日本の中小企業 デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル	難民・移民と人間の安全保障 日本のものづくり経営 日本のビジネスリーダー
		前学年度夏 ～ 今学年度秋 長期フィールド実習		

【主要科目の特長】基礎科目の目標

地域資源とソーシャル・ビジネス

The objective of the course is to introduce basic knowledge about social business and processes necessary for the preparation of own businesses for solving social issues with frameworks usable for each process. With actual cases of social businesses, we will discuss how entrepreneurs identified issues, what kind of solutions they came up with by using what kinds of resources available. It also includes discussions on how their businesses are analyzed from the perspectives of management frameworks and how those businesses are related to Sustainable Development Goals (SDGs).

経済開発における政府と起業家の役割

Real world is rife with market failures. Entrepreneurs frequently encounter the chicken and egg dilemma. If you are a pioneer on a product or service, your discovery costs cannot be fully recovered since many others can easily imitate. Laissez-faire outcome is: there is too little investment and entrepreneurship. Obviously, there are important roles of governments to help entrepreneurs overcome the market failures embedded in development. This course will focus on such government's roles in development. After reviewing several types of market failures that entrepreneurs can encounter in their business, the course will shed light on government policies to fix the market failures, and try to find out some designing principles of government interventions. The course will also review effectiveness of some conventional policies, such as subsidized loans to SMEs through a public financing institution, and small loans through microfinance institutions, and clarify why most of these policies failed in many countries.